令和８年度　第２回大阪府河川整備審議会　議事要旨

日　時　：令和８年 10 月 26 日（月）10:00～11:15
場　所　：西大阪治水事務所　会議室およびＷＥＢ会議
出席者　：（委員）相子委員、青山委員、荒木委員、入江委員、大藪委員、岡井委員、川池委員、濱委員、堀委員　計９名　（欠席）山本委員
内　容

１．淀川水系神崎川の河川整備の事業評価について
・本日までの審議をもって、「【府の対応方針（案）：事業継続】は適切」との答申をいただいた。
２．大川水系大川の河川整備の事業評価について
・大川水系大川の河川整備の事業内容及び、対応方針等の説明を行った。
３．治水専門部会委員の選出について
・川池会長は治水専門部会の委員として入江委員、濱委員を新たに指名し、部会長として堀委員を指名した。

概　要　：〔以下、〇委員　●事務局〕

１．淀川水系神崎川の河川整備の事業評価について

〇 河床掘削により断面を確保しても、上流からの土砂流入や潮汐の影響により再び土砂が堆積する可能性はないのか。
● 定期的に堆積土砂調査を実施しており、現時点では大きな堆積傾向は確認されていない。一部支川流入部では堆積が見られるが、今後も定期的に堆積状況を確認し、必要に応じて浚渫を実施していく。

〇 B/C に関する説明は他の河川事業にも共通する内容であり、今後も活用できる分かりやすい解説資料として整理してはどうか。
● 河川整備審議会ホームページ等において、分かりやすい解説資料を掲載できるよう検討する。

〇 水辺に触れ合える場所を整備する考えはあるのか。また、河川沿いの柵を撤去することは可能か。
● 神崎川は水深が深く、安全確保の観点から自由に触れられるような場所の整備や柵の撤去は困難である。

〇 資料中の「L=7.1㎞」は「延長 7.1㎞」と表記した方が分かりやすい。また、「HWL」についても説明を付記した方がよい。
● 「L」の表記を修正するとともに、HWL（計画高水位）についても分かりやすい説明を追記する。

〇 B/C=8.0 は大阪府の河川整備事業の中で高い水準なのか。
● B/C=8.0 はかなり高い水準であり、都市化が進み保全対象となる資産が多い神崎川の特徴が反映されている。
〇 府管理河川において、B/C が 1 以上であれば事業を継続する考えか。
● B/C が 1 以上であれば事業継続の妥当性があると考えている。

〇 当面の治水目標達成後も浸水範囲は残るのか。また、100 年確率（年超過確率 1/100）や 200 年確率の降雨に対してどのような考え方を持っているのか。
● 当面の治水目標では 40 年確率に対する床上浸水がなくなるものの、一部床下浸水は残る。神崎川では支川の国管理河川である猪名川の整備目標にあわせ、将来的には下流部で 200 年確率、上流部で 150 年確率を目標とした整備を予定している。

○ B/C 算定における便益・費用は現在価値化したものか。また、1/40、1/100、1/200 といった確率規模はどのように評価に反映されているのか。
● B/C は令和 8 年度を基準年として現在価値化した便益と費用により算定している。また、各確率規模ごとの被害額と発生確率を用いて年間被害軽減期待額を算出し、便益の計算に反映している。

２．大川水系大川の河川整備の事業評価について
○ シュレーゲルアオガエルやアオダイショウなどの重要種への影響はないのか。また、河床掘削によるニホンウナギ等への影響はどうか。
● 重要種は主に中上流部に生息しており、現在施工中の区間とは離れているため影響は小さいと考えている。また、ニホンウナギ等への影響については、施工方法の検討等を行う際に自然環境に配慮しながら進める。

○ 10 年確率の降雨での対策であるにもかかわらず、100 年確率でも被害軽減効果が見込まれる理由は何か。
● 大川では 10 年確率の対策を実施する際、HWL（計画高水位）に余裕高を加えて河道断面の設計を行っている。大川は掘込河道であり、100 年確率の氾濫解析では堤防天端高まで流下する条件で解析しているため、結果として 100 年確率に対しても一定の被害軽減効果が見込まれる。

○ 河川整備計画の中での逢帰ダムの位置付け及び、対応している確率降雨を教えてほしい。
● 逢帰ダムが受け持つ流域としては、概ね 200 年確率の降雨まで貯留できる。ダムの流域は大川の一部に含まれているため、大川の計画流量はダムの流域を除き、ダムの流域以外の流域のみで計算しているが、河道では 10 年確率の流下能力が不足している。

○ 浸水リスクの高い区域への老人ホーム等の立地については、十分なリスク周知を図るべきである。
● 要配慮者施設への対応は重要であり、関係部局と連携しながら取り組んでいく。

○ 南海橋周辺の整備において、ふとんかご等を活用し、多様な流れを創出するなど生物環境への配慮を検討してほしい。
● 用地制約等はあるが、生物多様性に配慮した整備について検討していく。

○ 南海橋周辺の完成目標を特に示している理由は何か。また、③区間の保全人家への対応方針はどのように考えているのか。
● 河川整備は下流から実施することを原則としており、現在施工中の①区間を令和 12 年度までに完成させることを目標としている。②・③区間についても令和 17 年度までの完成を目指している。また、③区間については宅地嵩上げや移転も含めて検討していく。

以上